香川大学 医学部附属病院 香川県木田郡三木町池戸1750-1 (087)898-5111(代) 発行人／病院長 門脇 則光

No.467 2025.9.01

Olive News

オリーブ便り

基本理念 患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。

さぬき高松まつりに『かだい病院連』として、今年も参加しました!

さぬき高松まつり「かだい病院連」事務担当

8月14日(木)に開催されました第58回さぬき高松まつり総おどりに、『かだい病院連』として2年連続2回目の参加をしました。

本年も医学部長、病院長をはじめ、医師・看護師・医療職員・事務職員・学生の有志に加え、教職員のご家族など、総勢100名以上が参加し、年齢や職種の垣根を越えた一体感のある『連』になりました。

参加者が着用したTシャツはオリジナルデザインです。「つながり」を意味する縄模様に、当院マスコットキャラクター「くーちゃん」と、「和柄」をあしらい、お祭りらしい仕上がりになりました。このTシャツを身にまとい、参加者全員が一体となって地域のまつりを盛り上げました。

当日は夜になっても真夏の暑さがひときわ厳しく感じられる中、それでも参加者たちは力いっぱい踊りました。地域の方々からも、沿道から温かい拍手と声援をいただけたと思います。地域の方々との関わりを持てたと同時に、当院スタッフが一丸となって取り組む姿をお見せできる貴重な機会になりました。

第24回卒後臨床研修指導医養成講習会の開催報告

香川大学医学部附属病院　卒後臨床研修センター　センター長　**安田 真之**

去る8月22日(金)・23日(土)の2日間、福利厚生施設棟(調剤薬局)2階にて第24回香川大学医学部附属病院　卒後臨床研修指導医養成講習会を開催しました。

指導医養成講習会とは、研修医を受け入れ指導する病院側の指導者養成を目的とした講習会です。開催については、厚生労働省の指針にのっとり開催することが規定されており、報告書の提出も求められています。

今年度は、世話人の先生方(7名)の指導のもと、本院16名および県内の協力型臨床研修病院13施設より14名の計30名の先生方が受講され、厚生労働省医政局長認定の修了証書を授与いたしました。また、2020年度からの卒後臨床研修制度見直しにおける多職種による研修医評価の実施を踏まえ、本院看護師にも4名の参加をお願いしています。

今回も、田中 信一郎先生(中国四国厚生局健康福祉部医事課臨床研修審査専門官)、香川県(健康福祉部医療政策課)による特別講演等を事前動画にて視聴し、卒後臨床研修制度ならびに県行政における医師育成・確保施策の現状と今後の取り組みに関して、理解を深める貴重な機会となりました。講習会当日は、ワークショップにより集中し、研修医に寄り添った研修プログラムの立案・評価等について討論できました。

今後も、指導医育成を通じて、香川県の地域医療の充実に貢献できる医師育成に努めてまいります。ご協力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

うどん県膵がん早期発見プロジェクト構想について

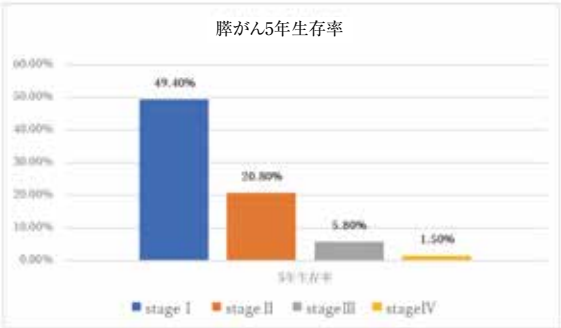
香川大学医学部附属病院　膵臓・胆道センター　**鎌田 英紀**

膵がんを早期発見する意義

膵がんは予後不良の難治がんです。統計によると5年生存率は8.5%と、全がん種の中で最も低率です。予後不良となる要因として、膵がんは早期発見が難しいことが挙げられます。症状が出現した際にはすでに病期が進んでいることが多く、治癒が期待できる唯一の治療法である手術が不能となる場合が多いです。

下のグラフは膵がんの5年生存率を病期別に示したものです（図1）。病期が進行するにつれて生存率は低下しています。つまり、膵がんの予後を改善するには、手術が可能な段階で発見・診断することが重要です。

図1



出典:がん研究振興財団「がんの統計2023」

膵がんを早期発見するために

膵がんを早期に発見するには、リスク因子のある方を効率よく拾い上げ、より詳しい画像検査を行う必要があります。

「うどん県膵がん早期発見プロジェクト」では身近なかかりつけ医での問診や血液検査、エコー検査により、膵がんのリスクの有無を診断します。リスクがあると判断された方に、地域の中核病院での精密検査を受けていただくようサポートします。

精密検査

1.超音波内視鏡検査（図2）

超音波内視鏡(EUS: Endoscopic Ultrasonography)とは先端に高解像度の超音波が備わった内視鏡です。超音波内視鏡の先端を胃壁や十二指腸壁にあててすぐ向こう側にある膵臓を詳細に観察することができます。

図2

2.MRCP（図3）

強力な磁力と電波を使い、磁場を発生させて行われる検査です。膵管や胆管の走行を詳細に調べることができます。

3.ダイナミックCT（図4）

X線を体の周囲から当てて、体の断面を画像にする検査です。早期膵がんでは膵実質の萎縮がみられることがあります。

香川県の膵がん患者の予後を改善するために、香川大学医学部附属病院膵臓・胆道センターが中心となって、この「うどん県膵がん早期発見プロジェクト」を計画しています。

図3

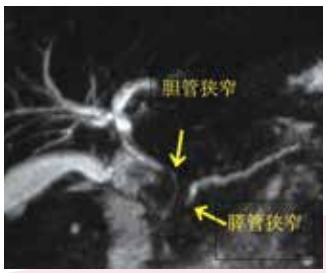
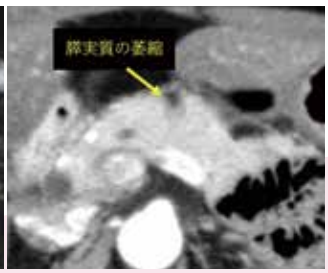


図4



認知症看護認定看護師の紹介

香川大学医学部附属病院　看護部　**森 郁代**

65歳以上の人口がピークを迎える2040年には、認知症の数が約584万人になると言われています。人生100年時代、「新しい認知症観」誰もが認知症になり得るという認識のもと、認知症になっても自分らしく希望を持ち続け暮らしていける共生社会を目指す国の動きもあります。

私は、認知症看護認定看護師として院内で活動させていただいていますが、認知症の家族としても経験中で、家族だけでなく地域や介護・福祉の中でどのように連携を取りながら支えていけばよいか模索しております。そんな自分の経験も活かし、認知症のひとやご家族の支援ができればと思い、人との出会いを大切に考えています。

ここで私の院内での活動の一つをご紹介します。2022年9月から開始となった「精神科リエゾンチーム」です。リエゾンとは、「連携」「つなぐ」「橋渡し」という意味があります。せん妄や抑うつ、不眠といった精神的問題を抱える入院患者さんやご家族に対して、精神科医師、看護師、公認心理師、薬剤師など多職種が連携し身体（からだ）と心をつなぐ支援を行っています。病棟スタッフと連携し、慣れない入院環境で不安や不眠、苦痛をかかえながら、検査や治療を受けている患者さんやご家族の支えとなるチームです。一人で抱え込まず「精神科リエゾンチーム」を頼っていただき、私たちもチーム一丸となって支えていきたいと思っています。

精神科リエゾンチーム回診風景

腫瘍内科

診療科長の横顔

香川大学医学部附属病院　腫瘍内科・診療科長　**辻 晃仁**

座右の銘、ポリシー

私の座右の銘は「疾患だけではなく、病気の患者を診る」です。医療は病気を治すだけでなく、その人の背景や生活に目を向け、支えることが大切だと考えています。一人ひとりの患者さんに寄り添い、安心して治療を受けていただけるよう努めています。

診療科紹介

腫瘍内科では、がんの薬物療法（化学療法・分子標的薬・免疫療法など）を専門的に行っています。がんゲノム医療や新薬の国際共同開発（治験）にも積極的に取り組み、香川県で日本最先端のがん治療を提供しています。副作用対策や緩和ケアにも注力し、多職種と連携した体制を整えています。

看護師長の横顔

南病棟2階　看護師長　**前田 恵子**

座右の銘、ポリシー

看護師として働きはじめ、ちょうど20年が経ちました。日々たくさんの患者さんと接する仕事ですが、病院の中では患者さんという存在でも、一人ひとりが誰かにとってかけがえのない大切な存在であるということを忘れないように心掛けています。また、患者さんを支える私たち医療者も大切な存在であることを意識して、周囲を労わる心を忘れないようにしたいと思います。

診療科紹介

南病棟2階は腫瘍内科と周産期女性診療科の混合病棟です。腫瘍内科の患者さんは手術前・手術後の抗がん剤治療や、治療中の副作用のコントロールなどを目的に入院されています。治療と並行して痛みや苦痛を和らげる緩和ケアも同時におこなっている患者さんも多くいます。患者さんやご家族が安心して治療に専念できるよう、緩和ケアチームや地域連携室など多職種が協力してサポートしています。

令和7年度 香川大学医学部附属病院 関係医療機関懇談会を開催しました

香川大学医学部附属病院　副病院長（教育･広報･地域連携担当）　**岡野 圭一**

令和7年7月3日（木）、高松市内のホテルにおいて「令和7年度　関係医療機関懇談会」を開催しました。本懇談会は、地域の関係医療機関との診療連携や協力体制の一層の強化、ならびに本院の現状や今後の方向性について情報共有を図ることを目的として、毎年開催しているものです。

当日は、香川県内および隣県の医療機関から病院長など60名、本院から44名、計104名の皆さまにご参加いただきました。開会にあたり、門脇則光病院長より、大学病院の現状と将来構想についての挨拶と報告がありました。続いて、昨年の本会開催以降に教授就任された救命救急センター長の河北賢哉先生と地域医療総合医学講座の谷 丈二先生より、それぞれ教育･研究･診療の取り組みについてご紹介いただきました。さらに今回は、泌尿器･副腎･腎移植外科の岡添 誉先生より、本院で実施している先進医療「高密度焦点式超音波療法（HIFU）を用いた前立腺癌局所治療」についての紹介があり、参加者の関心を集めていました。

後半には、関係医療機関を代表して、四国こどもとおとなの医療センター 前田和寿病院長および屋島総合病院 斉藤 誠病院長から、それぞれの施設における最新の取り組みや地域連携への思いについてご講演をいただきました。

懇談会終了後には懇親会も開催され、和やかな雰囲気の中、活発な意見交換や情報共有が行われ、大変有意義なひとときとなりました。最後に西山 成医学部長のご挨拶をもって、全プログラムが盛会のうちに終了いたしました。

ご多忙の中ご参加いただいた関係医療機関の皆さまに、心より感謝申し上げます。今後も地域医療の発展を目指した連携のため、引き続きご支援･ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

小学生･中学生対象　病院医療機器体験会を開催しました

香川大学医学部附属病院　スキルスラボセンター長　**光家 努**

令和7年7月26日（土）、香川県内の小学生･中学生を対象とした医療機器体験会を実施しました。本院スキルスラボセンターにて、臨床工学技士と一緒に医療機器について学び、実際に体験し、医療の面白さ大切さを知ってもらうことを目的としております。

当日は実際に医療現場で使用されるスクラブを着用して、術前の手洗い･術衣体験や内視鏡下手術を体験、集中治療室で呼吸器管理などについて学びました。

特に小学生の部では、肺の仕組みを学ぶため風船やストローなどを用いて肺モデルの工作を保護者の方も交えて行いました。

また、中学生の部では、実際に手術室で使用される電気メスで、バナナや鶏肉などを用いて操作や仕組みについて学びました。

医療機器の体験の後にみんなでドクターヘリの見学を行い、記念写真の撮影を行いました。

始めは緊張していた参加者も体験を通じてリラックスしていき、講師の臨床工学技士の方に熱心に質問を行うなど、楽しそうに体験を行っていました。

今回のような経験で医療に興味を持ち、将来の進路選択にもなれるよう今後も実施していきたいと思います。

ケーブルTVで放送中

イキイキさぬき健康塾
香川大学医学部附属病院　医療セミナー

詳しくはこちら

9月のテーマ	炎症性腸疾患ってどんな病気?
10月のテーマ	大切な私たちの心臓～今こそ生活習慣を見直そう～
11月のテーマ	当たり前になった高精度放射線治療（予定）

編集委員会（50音順）　（2025年6月現在）
岡内（外来）、岡野（副病院長）、尾﨑（医事）、寒川（総務）、小坂（薬剤）、多田（検査）、田中（病棟）、筒井（医療支援）、保科（管理）、森（看護）、門田（放射線）、横井（医療情報）〔委員長 門脇病院長〕